

認知症をわかりたい⁽²⁾

ある日の「講座」をのぞいてみた

協力：京都市左京南地域包括支援センター



■認知症の方は全国に一六九万人。二〇年後には倍増するといわれています。認知症の人を見守れる人を増やそうという講座も各地で開かれていますね。このページでは、みなさんといっしょに、ある日ある場所でおこなわれた講座をのぞいていきます■

あらわれる症状は

前は、認知症が病気だとお話しました。では、どんな症状や特徴があるのでしょうか(図)。

いま聞いたことを忘れてしまう、自転車や買い物に行ったのに、帰りは歩いてきてしまう、といった症状が「記憶障害」で、早くから現れます。

「見当識障害」も早く出ます。見当識(けんとうしき)とは、現在の年月や時刻、現在地など、基本的な状況把握のこと。時間の見当識が薄れると、何度も確認したはずの時刻に外出できなくなり、季節感が薄れて、暑い日も厚着をするなどのことが起こります。外出したが、どこにいたのかわからず、迷子になるのもこの症状です。

「理解・判断力」も低下します。考えるスピードが遅くなる、二つ以上のことが重なるとうまく処理できない。余計な買い物はしないと自分でいっているのに、訪問販売で高い商品をいくつ

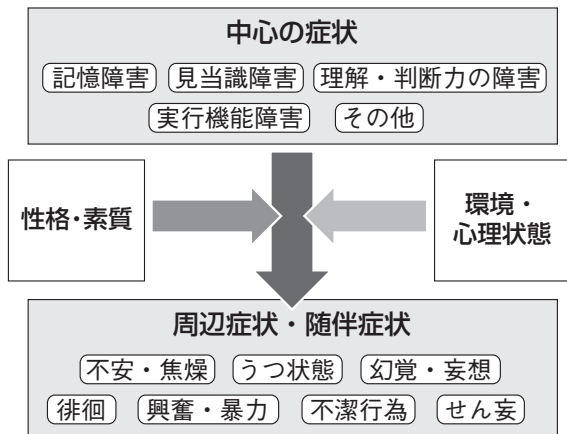
も買う、といったことも。

頭で計画をたて、実行することがむずかしくなるのが「実行機能障害」、ご飯を炊いて同時進行で料理するといったことは至難のわざ。日常生活がうまくすすまなくなります。

その場にあつた感情表現が、普通の人のようにできなくなることも。

どんな特徴がある?

そんな認知症の症状が出ると、本人は「今までの自分とは違う」と感じ、元気がなくなります。できないことを周囲の人たちに知られることも恥ずかしくて、「なんでや、なんでできへん?」なんでこんななつてしまったんや」と情けなく、ふがいなく思います。



その思いがイライラとなつて、いちばん甘えられる存在である家族に対して出てしまいます。

家族にとつてみれば昨日まで、何年も何十年も知っていたお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんがまるで別人みたいに感じられる。その上、認知症の知識が十分な場合、不適切な対応をしてしまいます。

つい出てしまう言葉が「なんでそんなコトもできへんの? 昨日までできてたやん、ウソばかりつかん」といって。忙しいのに、かなわんなあ!...:そういうわれる認知症の人は悲しいです。自分が忘れたことを家族のせいにしてたり、これまでイライラを感じなかったことにイライラして家族にあたったり。すべてに腹が立ちます。自分に対して、忘れることに対して、家族に対して...。あとは「外に出て何もできへん。私なんて、何もできへんようになってしまった」と、引きこもつて、無気力になる。悲しくて泣いてばかりいる、などという変化が起こる場合もあります。認知症になつた本人も家族も大混乱なんです。(写真はイメージです)

ほつと介護

83